

PJA TIMES

2026 第2号 VOL. 5, ISSUE 2

プリンストン日本人会
PRINCETON JAPANESE ASSOCIATION
NEWSLETTER

目次/Contents

- P.2-3 PJA主催活動報告 / Activities
- P.4-6 春の会ご報告 / Spring Party Report
- P.7-9 スポットライト / スポンサー・インタビュー
Amnet New York, Inc. 外波山幸作氏
Interview with Mr. Kosaku Tobayama
- P.10-12 Rutgers Meets Japan: A Celebration of Friendship
- P.13 PJA News

JULY 2026

PJA主催活動報告 / ACTIVITIES

子ども餅つき&お楽しみ会

2026年1月10日、今年最初のイベントは新年らしく餅つきや、日本の文化を取り入れたゲームなど盛りだくさんなお楽しみ会となりました。



まず最初にパパ・ママによる餅つきが始まり、次に子ども達が仕上げを担当してくれました。ペッタン ペッタンと全身を使い重い杵を持ち上げる様子や、返し手とのリズムを計算しながら餅をつく子どもの姿が微笑ましかったです。そして何より、とっても柔らかく美味しいお餅に皆さん大満足な様子でした。

クラフトタイムでは熊手作りをしました。紙皿や色画用紙を使いカラフルに仕上げ、皆さん集中して完成を目指しました。次に“箱の中身はなんだろう！”ゲームは視覚を遮り、手の感覚だけで箱の中身を当てるドキドキのゲームです。1人10秒しかなく更にはカウントダウンが響き、焦る中、真剣そのものの表情でほとんどの子が正解していました。大人もそれにはびっくりです。そして、子どもに負けまい！と、大人たちもゲームに参加し楽しみました。

他には大きなカルタ取りに巨大だるま落とし！カルタ取りでは小学生くらいの年齢の子たちが全身でカルタを取りに向かっていました。空いた時間には、おみくじや福笑いなど、ここでも日本を感じれる空間が出来ていました。

最後は、プリンスン話し会の皆さんによる人形劇（小人のくつ屋）と紙芝居（ひょうたんからでた金七・孫七）にて会は幕を閉じました。人形劇は、温かみのある木が使われ、無機質な色味のウール素材で出来た人形たち。皆さん、その世界観に引き込まれるように静かに観ていました。話し手だけではなく、日本を思い出す音色の小さな太鼓や他にも様々な楽器を使われていたのがとても心に残りました。紙芝居では、みんなはひょうたんを知ってるかな？という声かけに、あまり反応がなかったところを見ると、やはり時代も国も違う為、知らなくて当然だと思いました。同時に、こうして昔ながらの紙芝居を通してひょうたんを知っていくんだなあ子どもたちに1つ知識が増えたことに喜びも感じました。

今回のように日本文化や日本の遊びを体験することで、自然と日本と自分との繋がりを感じて頂けたらとても嬉しいです。そして今回の体験が皆さんの「楽しかった記憶」として心に残りますように。参加して頂いた皆さん、ご協力して頂いたボランティアの皆さん、ありがとうございました。来年はどんな新年会になるのでしょうか？ 今から楽しみにしています。

PJAイベント委員会
パプラント絵美子



PJA主催活動報告 / ACTIVITIES

親子deあそぼ！



3月25日の親子deあそぼ！は春をテーマにし、『はらぺこあおむし』の絵本を読み、その後、好きな絵の具の色を組み合わせ、チョウチョを作りました。10本の指と両手の平を使い、みんなそれぞれにチョウチョの羽を作るクラフトタイムを楽しみました。今回は、新しい方の参加があり嬉しい反面、帰任が決まり最後の参加となった方がいたり、日本の送迎時期を感じる会でもありました。

最後は、恒例になった『ぐるり』の絵本やおもちゃ・衣類の交換会と子育て相談会も行われ、とても充実した時間となりました。

子育て支援実行委員会 パプラント絵美子



4月29日の親子deあそぼ！はMontgomeryの図書館で集まりました。こいのぼりなど日本の手あそび歌を歌って、何色が好き？ の問いかけに色んなクレヨンの絵をもらって色を学び、ポケットからクッキーが出てくるのを見たりした後は、子供ヨガをしました。いつもの親子ヨガでなく、子供達が自分で牛になったり犬になったり色んなヨガのポーズをしました。クラフトの時間では5月5日の子供の日のために、鯉のぼりを作りました。小さな風船に絵の具をつけて紙にポンポンして青と赤の鯉を作りました。皆の力作を持って2m以上ある大きな真鯉を持ってカメラに向かってポーズ。いつも通りのママ交流タイムのお喋りで、情報共有や交流を深めました。(親子deあそぼ！委員会)



SPRING PARTY

春の会ご報告

プリンストン日本人会（PJA）は、5月30日に恒例の「春の会」をプリンストンのマリオットホテルで開催し、約80名が参加しました。

まず、ガーツマ裕子会長の開会の辞に続き、CH10周年の軌跡と新しい活動ブランド「PJAコネクト」の紹介がありました。CH（PJAコミュニティハウス）は、会員の皆さんが交流できる場として立ち上げられてからすでに10年が経ち、その歩みをスライドで振り返りました。

子供達の合唱は「はじまるよ」「げんこつ山のたぬきさん」「春の小川」の3曲で、可愛い歌声を披露してくれました。最後の「春の小川」は会場の皆さんと一緒に全員で歌い、会場が一つにまとまるような温かな雰囲気になりました。

続いて、ラトガース大学の若林先生より、9月12日に予定されているグリフィス記念式典のご紹介がありました。スライドを交えながら、グリフィス氏が日米交流の懸け橋となったこと、ラトガース大学が幕末から明治初期にかけて多くの日本人留学生を受け入れていたこと、その一人でありグリフィス氏の親友でもあった日下部太郎さんのお墓が大学近くにあり、毎年PJA会員有志が盆供養に参加していることなどをお話いただきました。



スバルの鷹巣副社長からは、PJAへの温かいメッセージを込めたスピーチをいただきました。スタンプラリーでは、PJAスポンサー企業6社がブース参加し、来場された会員の皆さんと直接交流を楽しんでいました。各ブースでは会社紹介やサービス説明に加え、和やかな会話が交わされ、会場全体がとても温かな雰囲気に包まれていました。また今回はスポンサーの皆様からクイズをご提供いただき、テーブル対抗クイズとして大いに盛り上がりました。最後には景品が当たる抽選会も行われ、多くの方が景品を手になされて嬉しそうな様子でした。サイレントオークションでは、ペアとシングルの国際線航空券をラッキーな方々が獲得されました。

SPRING PARTY

春の会ご報告

フラメンコ鑑賞では、リサ先生の魅力的なソロダンスに加え、日本人のお弟子さんとの華やかな踊りをご披露いただきました。最後には会員の皆さんへのミニレッスンもあり、大人も子供も多くの方がステージに上がってステップを踏み、思い出に残る楽しいひとときとなりました。

特別ゲストとしてご参加くださった真鍋ご夫妻と記念写真を撮りたい会員の方が多く、会場は大いに盛り上がりました。ご夫妻は終始にこやかにされ、会員の皆さんとの交流を楽しまれていました。



SPRING PARTY

春の会ご報告

ご参加いただいた皆さんから、大変楽しかったという沢山のフィードバックをいただいております。

- ✧「心温まる会で、大変楽しむことができました。」
- ✧「会員の皆様と交流できて、いつもながらとても充実した会でした。色々と企画を考えられて、大変だったかと存じますが、その分楽しむことができました。次回は2年後を楽しみにしています！」
- ✧「このような盛大な会のご準備、さぞ大変だったとお察しいたします。おかげさまで、会員の方達とお話しをしたり、楽しいひと時を過ごさせていただきました。」
- ✧「とても良かった！ 食事も良かったし、フラメンコは皆が楽しんでいた。音響も良く聞こえて良かった。」
- ✧「家族ともども大変楽しい時間を過ごさせていただきました。」
- ✧「春の会、大成功でしたね。フラメンコ、素晴らしかったです。会員同士の交流もあり、素晴らしい会でした。お天気に恵まれ、大勢の方にお目にかかり、とても楽しかったです。本当にありがとうございました。」
- ✧「いつものことながら、子供達が退屈せず走り回れるスペースがあることは素晴らしいと思いました。また次回を楽しみにしています。」
- ✧「2年振りの春の会、楽しかったです！ 特に、会員の生徒さんとスペイン人の先生が踊られたフラメンコはとても良かったです！ 真剣かつ楽しんで踊られていた皆さんを拝見したら、またスペインへ行ってみたくくなりました。」

PJA春の会実行委員会



とばやま こうさく

外波山幸作 氏

Mr. Kosaku Tobayama
President & CEO
Amnet New York, Inc.

Boston University にてホスピタリティーを専攻。
2002年にAmnet入社後、パッケージ部門、法人予約部門を
経験し、その後、人事・財務部門を経て、2024年より現職。
「優れたサービスによる高い顧客満足」を大切にしながら、
アメリカで“日本クオリティー”の旅行サービスを提供して
いる。
熱狂的な鉄道ファンとしても知られ、日本のJRは全線乗車、
アメリカのAmtrakもほぼ制覇。ボストン、ニューヨーク、
トーランスを経て、現在はダラス在住。



今回スポットライトを当てるのは、PJAスポンサー企業Amnetの外波山氏です。Amnetの強み、今人気の旅行先、旅行計画を立てる際の心構えなど、日頃あまり聞く機会のないプロ目線からの大変興味深いお話を聞かせていただきました。

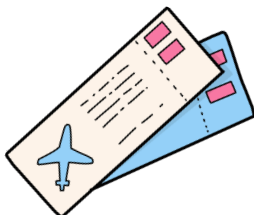
“日本クオリティー” をアメリカでも

- 海外に進出している旅行会社は数多くありますが、Amnetならではの強みは何ですか？

一番の強みは、日本語による“日本クオリティー”のサービスをアメリカでも提供していることだと思います。アムネットでは24時間サポート体制を整えており、旅行中の急なトラブルや変更にも対応しています。旅行というのは「予約したら終わり」ではなく、出発してから何が起こるか分からない部分も多いので、そこに安心感を持っていただけることは大きいですね。

また、実は予約担当スタッフ全員が本当に旅行好きなんです。前職から旅行業界一筋のスタッフ、ホスピタリティー専攻だったスタッフ（私！）、アメリカ国立公園を全制覇したスタッフ、鉄道好き（私！）、飛行機好き、ディズニー好き、世界遺産巡りが趣味のスタッフなど、本当に様々です。単に「仕事として予約を取る」のではなく、「自分だったらどう旅したいか」という感覚で、お客様の旅行を考えているスタッフが多いと思います。

実はアムネットには、今どき珍しくオンライン予約システムがありません（笑）。少しアナログかもしれませんが、その分、お客様一人ひとりに合わせた細かなご提案ができることは、私たちらしい部分かもしれません。



“今だからこそ” 人気の旅

- 最近、人気が高まっている旅行先や旅行スタイルはありますか？

ここ数年、やはり訪日旅行の人気は非常に高いですね。アメリカ人の訪日旅行だけではなく、アメリカ在住の日本人の“里帰り”も含まれます。円安の影響もあり、日本滞在を以前より割安に感じる方が増えています。また、訪日は日本側の受け入れ環境も年々整ってきていて、以前より「行きやすい国」になってきていると感じます。少しユニークなところでは、最近はプライベートジェットのお問い合わせも増えています。主に法人のお客様向けですが、「超富裕層だけのもの」というより、“時間を買う移動手段”として現実的に検討される時代になってきました。



駐在生活だからこそ、早めの計画を

- 日本から来たばかりの駐在員やご家族が、最初に知っておくと便利な“旅行のコツ”はありますか？

まず、日本への一時帰国を予定されているご家庭は、航空券を早めに手配することをおすすめします。特に夏休みや年末年始は、多くの駐在家庭が同じタイミングで帰国するため、航空券の需要が一気に高まります。早めに動くことで、ご家族でまとまった座席を確保しやすいというメリットもあります。

同じことはアメリカ国内旅行にも言えます。Thanksgiving、Christmas、Spring Break は、航空券だけでなくホテルやレンタカーもかなり早い段階で埋まりやすく、「気づいた時には希望のホテルが満室だった」ということも珍しくありません。また、アメリカ駐在中は、日本からだとなかなか行きにくい場所へ比較的気軽に行ける貴重なタイミングでもあります。少し早めに計画するだけで、旅行の選択肢はかなり広がると思います。

トラブル時こそ感じる旅行会社の価値

- フライトキャンセルやロストバゲージなど、トラブル時に旅行会社の存在価値を感じる瞬間はありますか？

やはりフライトキャンセルや大幅遅延が発生した時ですね。特に混雑時は、航空会社の電話がなかなかつながらなかったり、空港カウンターが長蛇の列になっていたりすることも少なくありません。そのような場合でも、旅行会社側では比較的スムーズに対応できるケースがありますし、日本語で状況説明を受けられることに安心感を持たれるお客様も多いです。振替便や経由地変更、宿泊手配など、その時点で可能な選択肢を整理しながら、一緒に最適な方法を考えていきます。

旅行は楽しいことばかりではなく、時には予期しないことも起こります。そんな時に、「日本語で相談できる場所がある」という安心感は、日系旅行会社の大きな役割のひとつだと思っています。



“危ない” より、“快適かどうか”

- 機内盗難や旅行中の防犯について、気を付けることはありますか？

実際のところ、お客様から「危険な目に遭った」というお話を頻繁に聞くわけではないので、ニュースだけが少し先行している部分もあるかもしれません。特にアメリカ在住の方は、日頃から自然と“危険センサー”が鍛えられている印象があります。

ただ、その上で大切なのは、やはりホテル選びだと思います。ホテルは本当に分かりやすく価格と内容が比例します。料金を抑えれば、その分、立地や治安、清潔感、サービス品質などに差が出やすくなります。せっかくの旅行なので、「安かったけれど滞在中ずっとストレスだった」とならないよう、無理のない範囲で安心できるホテルを選ぶことはとても大切だと思います。



家族旅行は、“移動そのもの” も思い出に

- 家族連れに人気の旅行先、またはおすすめの旅行先は？

ご家族旅行では、「今アメリカに住んでいるからこそ行きやすい場所」を選ばれる方が多い印象です。その中でも特に人気の高いのが、フロリダのディズニーワールドやディズニークルーズです。ディズニーワールドは、日本のディズニーリゾートをご存じの方でも、「スケールが全く違う」と驚かれることが多いですね。最近はアプリや事前予約など情報量も多く、「もっと早く相談すればよかった」というお声も本当によくいただきます。また、ディズニークルーズは、ホテル移動の負担が少なく、小さなお子様連れや三世代旅行にも人気があります。最近特に人気の高いのが、ディズニーのアラスカクルーズです。氷河や野生動物など、“アラスカならではの”体験を楽しみながら、移動や食事の負担は少なく、ディズニーならではの安心感もあるため、ご家族旅行との相性がとても良いですね。

また、ニュージャージーエリアからですと、メキシコ・カンクンも非常に人気があります。直行便が多く、比較的短時間でリゾート気分を味わえるのが魅力です。オールインクルーシブのホテルが主流なので、小さなお子様連れでも比較的ゆったり過ごしやすい、キッズクラブ付きのホテルも人気があります。

最近では、キャンピングカーで国立公園を周遊する旅行もかなり人気があります。イエローストーン、グランドティトン、グランドキャニオン、ヨセミテなど、“アメリカならではの”スケール感を味わえるので、「駐在中に一度はやってみたい」というお声を本当によくいただきます。夜に星空を眺めたり、朝に野生動物を探したりと、“移動そのものが思い出になる”旅行だと思っています。

「図鑑の動物が、本当に目の前にいた」

- ご自身が印象に残っている旅行先はありますか？

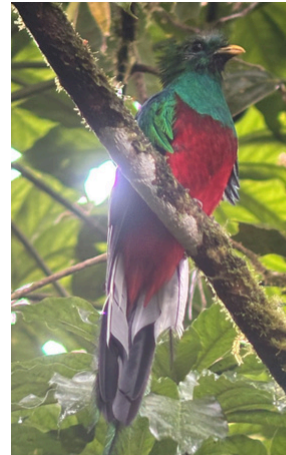
個人的にとっても印象に残っているのは、コスタリカです。「直行便がある」「あまり周りが行っていないさそう」という理由で選んだ旅行先だったのですが、実際に行ってみると想像以上でした。特に印象的だったのは、「図鑑で見ていた動物が本当に目の前にいる」という体験です。ホテルの敷地内ですら、野生の猿やカラフルなオウムが普通にいて、夜は動物の遠吠えで目が覚めるほど自然が身近にありました。私は子供が生まれる前に訪れましたが、「今度はぜひ子供と一緒にいきたい」と思っている場所のひとつです。

“人生の節目” に関われる仕事

- 旅行業界で働いていて、一番嬉しかった瞬間は？

旅行業界で働いていて嬉しい瞬間は本当にたくさんありますが、特に印象に残っているのは、お客様との関係が長く続いていくことです。例えば、最初はハネムーンをご相談いただいたお客様が、その後はお子様連れの家族旅行をご依頼くださるようになったことがありました。旅行を通じて、お客様の人生の節目に少しずつ関わらせていただいているような感覚があり、とても嬉しかったですね。

また、ご家庭の事情で日本への里帰りを長く迷われていたお客様が、ようやくご出発された後、ご家族との写真を送ってくださったこともありました。本来、旅行会社の仕事は「ご出発まで」なのかもしれませんが、実際には旅前・旅中・旅後まで、お客様の思い出に関われる仕事だと思っています。(終)



アムネットさんのツアーは本当に楽しかったです。捕獲されると死んでしまう自由の象徴、ケツアル鳥を自分の目で見つけられたのは、旅のハイライトでした！(PJA会員)



Rutgers Meets Japan: A Celebration of Friendship

W. E. グリフィス『皇国』出版150周年・再訪日100周年特別記念式典のご案内

ラトガース大学アジア言語文化学科 若林晴子

ラトガース大学は、最初の日本人留学生が1867年に福井藩から来た日下部太郎だったこと、そして1869年に卒業したウィリアム・グリフィスが卒業後福井で教鞭を執ったことから、福井との長い歴史的な繋がりがあります。大学は福井大学と学術提携を1981年に結び、大学が所在するニューブランズウィック市と福井市は1982年に姉妹都市、ニュージャージー州と福井県は1990年に姉妹州県として交流を深めてきました。今年は、グリフィスが帰国後に出版した『皇国 Mikado's Empire』の150周年、そして彼が最後に日本を訪れ天皇陛下から旭日章を授与されてちょうど100周年にあたります。そこで、9月12日（土）の午後3時から、ラトガース大学のKirkpatrick Chapelで記念式典を予定しています。PJAの皆様にもご参加いただきたく、ご案内いたします。

グリフィスとラトガース大学の日本人留学生

William E. Griffis (1843-1928)が在学した当時、ラトガースでは多くの日本人留学生が学んでいました。1866年に予備校であるグラマースクールに幕末の思想家横井小楠の甥二人が留学、翌年には福井藩士日下部太郎が大学に正規入学しました。その後を追うように、勝海舟の長男の小鹿、岩倉具視の子息・具定と具経、後に開成学校（現東京大学）の初代校長となる薩摩藩士畠山義成など、錚々たる面々が学びました。また勝小鹿に同行した富田鐵之助は、のちにニューヨーク領事館の初代領事、日銀総裁になったことでも知られています。1860-70年代のニューブランズウィックには、数十名（一説には数百名）の日本人留学生が滞在し、そこからニューヨークを初めとする東海岸各地の大学に進学し、帰国後は日本の近代化に貢献しました。



Kusakabe Taro and
Yokoi Brothers, William
E. Griffis Collection

こうした中、グリフィスはラトガース在学中にチューターやクラスメートとして日本人留学生と親交を深めました。さらに卒業後の1870年から1874年にかけては日本に滞在し、福井と東京で教鞭を執り、近代日本のリーダーの育成に大きく貢献しました。帰国後は、牧師になる傍ら、執筆や講演を通じて日本をはじめ、東アジアをアメリカ社会に広く紹介しました。そして1926年には、その功績を認められ、昭和天皇から勲三等旭日中綬章を授与されたのです。



Griffis and his Fukui students.
W. E. Griffis Collection,
Rutgers University

ラトガース大学と福井の現代交流史

ラトガース大学と日本の交流史の重要な側面は、それが後世に渡り、現地の人々によって記憶され、語り継がれ、地域の日米交流の要としての役割を果たしてきたことです。中でも、福井との交流は、1960年代に遡ります。



1977年の記念式典の様子

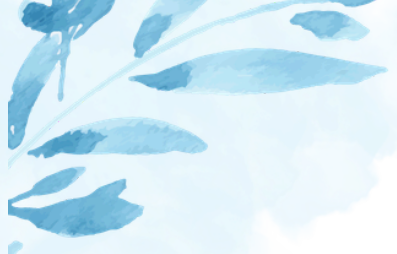
ことの始まりは、1960年代にラトガース大学のArdath W. Burks教授がWilliam E. Griffisコレクションを再発見、その整理と公開に務めたことにあります。同じ頃、福井市の堂下健二氏が日下部太郎のことを知り、その後青年会議所メンバーによる調査団が訪米。日下部太郎の墓地修復のための資金をニューブランズウィック市に寄付しました。そして1977年、墓地の修復を記念して、ラトガース大学のKirkpatrick Chapelで日本人留学生のための法要が、ニューヨーク本願寺仏教会の関法善師によって執り行われました。以来、毎年7月末にウィロウグローブ墓地ではニューヨーク仏教会、ニューブランズウィック市の姉妹都市協会やバナス真理子さんをはじめとするPJAの有志の協力のもと、盆供養が執り行われています。

こうして1980年代に福井大学・福井市・福井県とラトガース大学・ニューブランズウィック市・ニュージャージー州が協定を締結するに至りました。2020年には新型コロナ禍の最中に、ラトガース大学と福井大学が中心となって150年の友好関係を記念したシンポジウムなどを開催したことで再度注目を集め、2023年10月、NJ州知事のフィル・マーフィー氏が日本を訪問した際に福井県と覚書（MOU）を再締結するに至りました。

昨今、アジア系住民を標的としたヘイトクライムや嫌がらせが深刻化し、移民に対する差別や厳しい取り締まりなどが社会問題となっています。そんな中、この節目の年に、グリフィスを初めとするアメリカ人教師や学友たちと日本人留学生との交流が日本の近代化のみならず、日米の友好関係、アメリカの日本理解に果たした役割を振り返ることには大きな意義があります。また150年の間、さまざまな形でこの歴史を語りつぎ、日本とアメリカの橋渡しをしてこられた先人たちに敬意を表し、そのバトンを次世代にしっかり受け渡したいと思います。



Gov. Murphy signing MOU with the Deputy Governor of Fukui



12日の式典には、福井からも福井大学の教員2名および学生たち9名や、福井市副市長、国際室、合気道愛結会、そして福井国際交流に尽力した故堂下健二氏のご遺族もご参加予定です。また、グリフィスのご子孫も出席することになっています。式典のFlyerへのリンクは下記をクリックして下さい。

https://drive.google.com/file/d/1LrxT_Nbk16bsh3di-qzqN7CjOhIA3W9U/view?usp=sharing

この機会に、ラトガース大学/NJ/NYと日本との歴史ある交流を再確認し、日本および近隣の日系アメリカ人/日本人コミュニティとの絆を強めることができると願っています。是非奮ってご参加ください！

その他、関連行事についてもお知らせします。

- ウィローグローブ墓地での盆供養は7月25日（土）11時から掃除、12時から盆供養、1時からランチ。
Map <https://maps.app.goo.gl/F5TfHvBX44HmC1Mz5>
- Zimmerli Art Museum, Rutgers University
“Japan In/Out of View”（2026年9月9日～2027年2月14日）
- East Asian Gallery, 2nd Floor, Alexander Library, Rutgers University “William E. Griffis and the Rutgers-Fukui Connection”（開催中）

以下は、日本での開催となりますが、日本に一時帰国などの予定がある方は、是非お立ち寄りください。

- 東京都江戸東京博物館
「日米交流 知のかけはしーラトガース・カレッジと幕末明治の日本人留学生ー」（2026年10月24日～12月6日）
＊7月8日に若林が「えどはくカルチャー」で講演をします。東京にいらっしゃる方は、是非ご参加ください！
- 福井市立郷土歴史博物館
「ラトガース大学と福井ゆかりの留学生たち」2026年4月17日～6月7日
「グリフィスと近代福井の人びと」2027年3月20日～5月9日
- 東京都大田区立勝海舟記念館
「Koroku Katzー勝小鹿の生涯ー」2026年8月21日～12月27日

PJA主催の新しい活動「PJAコネクト」のご紹介

新活動ブランドネーム誕生!

人と人が出会う場所

つながりが価値に変わる瞬間を作る
そのつながりが誰かの力になる



PJAコミュニティハウス（CH）は2026年9月に開設から10周年となります。多くの会員の皆様にPJA主催または会員主催イベントの企画者・参加者としてCHを利用して来て頂きました。CHスタッフがこの10年間の活動を振り返ると、さまざまなテーマのイベントはもちろん意味があり素晴らしいけれど、会員の皆さんがPJAに入会する理由、最も求めていることは「人と人との繋がりをを見つけること」であるとあらためて認識しました。そこで人と人を繋ぐ活動をPJAの今後のフォーカスとする「PJAコネクト」という新しい活動のブランドを作りました。定例イベントによる新会員を含めたグループコネクション、または新会員だけでなく最近音沙汰のない会員への「声掛け」などによる個々のコネクションを奨励して、会員がPJAという集団に所属している、会員同士に絆がある、たとえ小さなことでも支え合いがあると感じるコミュニティづくりを目指しています。

「PJAコネクト」のグループコネクションの集いは、自己紹介、知りたいこと、わからないこと、今更聞けないこと Ask Anything Q&A、そして自由なおしゃべりを基本的フォーマットと考えています。春3月に開催された第1回目の集いでは、自己紹介を中心として、皆さんが日本を出てNJに辿りついて、あの日にコミュニティハウスに集うことになるまでのミニミニライフストーリーをお聞きしました。皆さんがここまで頑張ってきたお話は素晴らしく、お互いの励みにもなったと思います。夏6月の集いでは皆さんの「この夏にやりたいこと」をそれぞれお話して頂きました。初耳のお役立ち情報満載、やりたいことを実現するには勿論、よいお仲間が必要ということも多くあって、どこどこにみんなで行くプラン、新しいサークル活動のアイデアなどもいろいろ出て来ました。いずれも、対面での会話や雑談は単なる情報交換以上の価値が生まれるとつくづく感じさせられるよい集いとなりました。秋の集いは「あれこれセミナー」の懇親会の時間を新会員を囲んでの「PJAコネクト」の集いとしてしたいと思います。生活情報についての「あれこれセミナー」は主として新会員対象ですが、誰でも参加できるPJA定例イベントです。すでにPJAの活動によく参加している会員、地域の情報に詳しい会員にも参加して頂き、「PJAコネクト」を通して新会員の新生活がよりスムーズに進むように情報提供などで集いを盛り上げることができるとよいと思います。

最後に「PJAコネクト」のブランドロゴのデザインは、会員でアーティストの宅嶋夕華さんにデザインしていただきました。福を呼ぶと言われる日本の伝統的な水引の梅結びと紐をあしらった、PJAにぴったりのとてもおしゃれなロゴとなりました。今後のPJAコネクトの活動にご注目下さい!

PJAコミュニティハウス委員会



PJA ボランティア 登録

PJAは 会員のボランティアによって運営され成長して行くNPO団体です。PJAにてボランティアすることにより、会員の皆さんの趣味、特技、キャラクター、ビジネススキルをさらに生かし、新しい考えや技術、人とのコミュニケーションを開拓していくことが可能です。個人単位、ファミリー単位、そして中学生以上の学生さんの登録歓迎です（ボランティア証明書発行）。興味のある方は、こちらのフォームにご記入下さい。

<https://forms.gle/vJckMQnCFSwbeKM4A>

お問い合わせ: info@pja-nj.org

PJA TIMES プリンストン日本人会会報

編集長: ガーツマ裕子 企画: 黒田康子&メッツさゆり

編集/デザイン: メッツさゆり 編集スタッフ: フェイ薫&メッツ・アレックス

Princeton Japanese Association Website <https://pja-nj.org/>